

「人権」と聞くと、自分には関係ないと思っている人もいるかもしれませんが、誰もが一度や二度「言い過ぎた」「そんなつもりじゃなかったのに」という経験があるのではないのでしょうか。相手の気持ちを考えずに自分の気持ちを押しつけることは、相手の人権を侵害することにつながります。他人には、ある程度感情を抑えて冷静に話すことができて、家族などより近い関係にある人に対しては、配慮を欠いてストレートに感情表現してしまい、家庭内暴力や虐待につながる場合があります。

令和2年度に全国の警察に寄せられたドメスティックバイオレンス(DV)の相談は8万2643件で、DV防止法の施行後、過去最多の件数を更新したそうです。増加の原因として、新型コロナウイルス感染症の拡大により在宅時間が増え、家庭内暴力が深刻化、潜在化している可能性があるといわれています。警察庁によると被害者は女性が76.4%を占めているそうです。

DVは子どもの見ているところで行われる面前DVが多く、DVを目の当たりにする子どもの心理的影響も懸念されます。子どもは、親の言うとおりに育たず、親の行うとおりに育つと言われます。人権意識も同じく、親の人権に対する感性や考え方、行動に大きく影響を受け、方向づけられます。人への優しさや思いやりの心も、親や周りの大人たちの態度、言動が子どもたちの重要な手本です。

日頃から、乱暴な言葉つかいや否定的な言い方をやめ、自ら進んで、感謝の言葉や励ましの言葉など、人

と人とを心地よくつなぐような言葉を選んで使いたいものです。そんな日々の行いが、ぬくもりのある人間環境をつくり、人権を尊重する社会の実現につながっていくのではないのでしょうか。

